

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100345		
法人名	社会福祉法人 海菊会		
事業所名	グループホーム きみの田荘		
所在地	宮崎市大字小松口ノ坪2853番地		
自己評価作成日	平成29年10月2日	評価結果市町村受理日	平成29年12月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kihon=true&JijyoOsvoCd=4590100345-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成29年11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・心をこめた「安心」「快適」「やさしい」をモットーによりよい介護を提供するように努めています。毎日、生き生き生活活動として、ゲームや歌、しりとり、風船バレー、果物カード、ことわざカード等行っています。

・AM、PMにテレビ体操、香功(シャンゴン)、健体体操、歩行訓練を行い、全体の筋力低下防止に努めています。周りの景色が田んぼや草木で和みやすい雰囲気にあります。

・ホーム周りのベランダがあるので天気の良い日は日光浴をし、外の景色を眺めながら歌を歌ったりしています。おやつ時にはおやつを食べる時もあります。

・地域との交流を図りたいと考えており、ボランティアとの交流や短大生との交流も行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の近隣は緑地が豊かで、また、医療機関や商業施設もあり、利便性の高い場所に位置している。また、ホームは非常に広々としたつくりであり、明るい雰囲気づくりを心がけている。個性の高いケアの提供にも配慮され、家族や本人の要望や施設行事なども多く催されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自の理念を作り、更衣室に貼って意識づけるように努めている	理念は職員の更衣室に掲げられ、毎日目にするのでケアへの反映は意識付けられている。しかし、地域密着型施設の視点の不足や長年見直しをされていない。	今後は理念の見直しを行い、その中で「地域密着型」の特性などが職員の意識付けに反映されるよう、また、毎日のケアの実践に生かすよう期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方との交流会を行っている	月1回、ボランティア団体による歌や踊りの催し物が開催されている。また、地区の文化祭に参加するなど、地域との交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	機会があれば行っていきたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設、入居者の近況報告を行い、サービス向上に努めている 運営上困っている事など報告し、助言をもらっている	運営推進会議で出た意見や要望について、事業所内スタッフでの話し合いや、法人本部への報告を行い、改善に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困った事があつたら本部に報告し、本部でも解決できない場合は本部から市町村に相談に行っている	利用者や施設運営の近況報告や情報の伝達などを法人本部の担当職員を通じて行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない 南口と西口にセンサー設置と自動ドアの電源を切っている 施錠は帰宅願望がある方が不穩の時のみ行っており、現在は行っていない	身体拘束に関する勉強会などを通じて、職員に身体拘束をしないケアが熟知されている。利用者の状態について職員全体で話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を見過ごす事なく防止している 入居者と家族間での虐待も見られていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要な方はいないが必要な方が出た場合、慌てなくていいように研修等に取り組んでいきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明を行い、理解、納得していただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に入居者の状態を報告している 施設に対しての要望も聞いている 要望が挙げれば運営推進会議に報告している	家族の来訪時には積極的に声をかけ、本人や家族の要望について改善を図っている。その他家族には定期的に手紙での情報提供などを行い、意見が出やすい環境づくりに取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回スタッフ会議を開き、意見、提案を言う場を設けている スタッフが気持ちよく働ける職場を目指している	月1回職員全体での定期的な会議のほか、気づいたときに常時職員が意見交換などができる雰囲気づくりに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの実際と力量を把握している 研修に参加しスキルアップに努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在出来ていない 同グループの小規模と連携を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が思っている事をしっかりと聞く事から始めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話も聞き取り入れられるサービスは取り入れるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を十分聞き取り、サービスを決めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係が構築できるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人より電話がかかってきた場合は話してもらおうようにしている 年賀状を遠方の家族や知人に出すようにしている	本人や家族の意向を尊重し、できるだけ家族の協力も得ながら、なじみの環境とのつながりが継続できるように支援している。年賀状をはじめ、手紙や電話などの連絡手段も有効に活用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が楽しく過ごされるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も何かあれば相談、連絡を下さるよう声掛けを行っている 実際退居された家族からも相談を受けたりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者からは希望はなかなか出ないので家族にも協力してもらい、昔の生活状況や好きなものなどを聞き把握に努めている	家族の協力も得ながら、本人や家族の意向を引き出せるよう取り組んでいるが、潜在的な思いや意向を引き出せる情報が不足している。	生活歴などから細やかなアセスメントを行うことで、なかなか言い出せない本人や家族の思いや意向について把握をし、その人らしい暮らしの実現に取り組むことが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の方に今までの過ごし方を聞き日常のケアに活かさないか努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族の方に今までの過ごし方を聞き日常のケアに活かさないか努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーは本人様、ご家族様、居室担当者で話し合い介護計画書を作成している	職員全体での話し合いの場で再アセスメントやモニタリングを行い、その意見を介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シート、スタッフ会議、個人連絡表を用い見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズが出たら本人、家族と話し合いを行いニーズに対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散髪は地域の理容室を利用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は入居者それぞれ異なっている 受診時に状況報告書を持参してもらっている 訪問看護、薬局との連携も行っている	本人や家族の意向により主治医を決めている。家族の協力を得て受診を行うほか、訪問看護との連携や状態に応じて訪問診療を受けるなど、医療体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と契約を行い連携を取っている 報告、相談を行い早めの受診を心がけている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際定期的に病院、ご家族と連絡を取り合っている 入院後期間を決めお見舞いに行き様子観察を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問看護と契約を行い看取りに関しては家族の希望があれば取り組んでいく 入居者の状態に関しては家族の面会時や担当者会議で報告している	入居時に本人や家族の意向を書面で確認をしている。入居後の状態変化についても、看取りの指針などの説明を丁寧に行い、本人や家族の思いに沿った終末期ケアの実践に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていないが緊急時の対応としてマニュアルを作成している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	6月と12月の年2回避難訓練を行っている 地域との協力体制についてはお願いしている	近隣住民や併設の同法人の事業所の職員の協力を得ながら、夜間想定を含む避難訓練を定期的に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた声掛けを行なっている トイレ誘導など大きな声で言わず、本人の近くで言うなどプライバシーに配慮した声かけを行っている	居室には氏名の掲示を行わず、来訪者に対する個人情報保護に努めている。日常の声掛けにも本人が慣れ親しんだ声掛けを行い、入浴や排せつでは同性介護の配慮なども行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人から希望を出されたり自己決定できない方もいらっしゃるが態度や仕草等で判断している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースは大切にしているが、希望を言う事ができる方は少なくホームの日課に沿って過ごしていただいている 拒否があった場合本人のやりたい事をしてもらっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際は化粧をされていた方、化粧道具を持っている方は化粧をしてもらっている 眼脂や髪などこまめに取り、身だしなみにも気を付けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お盆洗い、拭き、茶碗洗いなど自分でできる方はやってもらっている	朝食以外は併設事業所の厨房で調理されている。利用者個々の能力に応じて準備や片づけの手伝いを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食、副食のチェックを全員分を行っている 水分量にも気を付け水分が少ない入居者、制限がある方にはチェックを行っている 食事形態も入居者の状態に合わせて提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている できない方は部分介助を行い支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに行かれない方は2～3時間おきに声掛けとトイレ誘導を行っている 排尿、排便の記録を付けている	心身の機能低下があっても、可能な限りトイレでの排せつが継続できるように日中はおむつの使用をしていない。その人に合った誘導を行い、おむつ使用の軽減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、毎日の歩行訓練の声掛けを行っている 便秘がちな入居者にはヨーグルトを提供し、腹部マッサージ等個々に合わせた排便コントロールを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	週に2回、夏季は週3回行っている なかなか本人様が希望する曜日、時間はできないが一日かけて一人ずつゆっくり入浴して頂いている 同性介護も心掛けている	季節に応じて入浴回数を調整している。一人ひとりがゆっくり入浴できるように時間を設け、入浴を拒む時などは無理強いをせず、時間をかけて声掛けや誘導を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温室の調整、ラウンドを行っている 寝具の調整など行い本人様が気持ちよく眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をすぐ確認できるように休憩室に保管している 薬局と連携を取り、薬に関して相談を行っている 服薬の際、日付と名前を声に出して読むなど2重チェックして誤薬に注意している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、掃除など以前やっておられた事を個々に合わせてできるだけやって頂くようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外気浴やベランダ歩行を行っている また、希望があれば誕生者の方はその月にスタッフと共に外出したりされる	天気や気候に合わせて、近隣の散歩や併設事業所との交流を行っている。利用者や家族の意向に合わせて外食なども行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方、希望されている方はいない為個別で所持はしていない スタッフと共に買い物に行き一緒に支払をするなどの支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に面会がある為ホームからかける事はないが、かかってきた場合は本人に代わってもらっている 電話ができる方は個別に携帯電話を持ってもらい通話されている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日数名の入居者と掃除を行っている 清潔で安心できる環境整備を行っている	広々とした共有空間のつくりであり、自然光なども入りやすく明るい雰囲気である。職員や利用者が一緒に製作した展示物も四季を感じられるものとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室になっている またラウンジで自由に過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や使い慣れた物を持って来て頂いている	仏壇や寝具などなじみのある家具の使用や家族写真などの掲示により、家庭に近い雰囲気づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	モップを使用した掃除、洗濯ものたたみなど入居者ができる事は一緒に行っている		